

社会部会 研究の構想（案）

令和7年度～

I 研究主題

社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を主体的に追究する生徒を育てるには、どのようにすればよいか。

II 主題設定の趣旨

本部会では、これまで「社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を主体的に追究する生徒を育てるには、どのようにすればよいか」を主題として研究を進めてきた。現行の学習指導要領全面実施から5年が経過し、「社会的な見方・考え方を働かせる授業づくり」、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、3観点へと変更された評価の在り方等について、理解と実践が広がりつつある。令和4年度から令和6年度までの3年間は「教材開発と学習活動の工夫」「指導と評価の一体化」の2つを柱として、研究を進めてきた。しかし依然として、「社会的な見方・考え方を働かせる『問い』とはどうあるべきか」を日々模索しながら、社会的事象を主体的に追究することができる生徒の育成に向けた授業改善に取り組んでいる教員が多いと推察できる。

これまでと同様、生徒を取りまく社会情勢は大きく急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。社会科においては、このような時代にあって、「社会的な見方・考え方を働かせて問題を解決しようと、社会的事象を主体的に追究する生徒の育成がより一層求められる。また、持続可能な社会の創り手の育成も重要な課題である」と考える。そこで、これまでの研究の成果を継続するとともに、「社会的な見方・考え方を働かせ方や課題解決的な学習に対する理解を更に深め、課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業づくりを推進していきたい。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

単元等、内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、各分野の特質に応じた「社会的な見方・考え方を働かせることで、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させる。

2 研究内容

- (1) 「指導と評価の一体化」
 - ① 身に付けるべき資質・能力を明確にして、「指導と評価の一体化」を図る。
 - ② 学力調査において、S-P表等を活用した分析結果を、今後の指導や評価問題の改善に生かす。
- (2) 課題の設定
 - ① 「社会的な見方・考え方を働かせた考察や構想に向かうために、単元等、内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定したり、構造化したりする。
 - ② 社会的事象からの生徒の気づきや疑問を基にした「問い」を設定するため、資料や発問を工夫する。
- (3) 教材開発の工夫
 - ① 生徒の興味や問題意識に合った教材を選定し、学習内容の吟味や使用方法の構想の充実を図る。
 - ② 現代的な諸課題を踏まえた学習内容を取り上げ、社会との関わりを意識させる活用方法を工夫する。
- (4) 学習活動の工夫
 - ① 社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成するため、「思考力、判断力、表現力等」を育てる学習活動の工夫・改善を図る。
 - ② 生徒同士が意見交換したり、議論したりする活動の充実を図る。

社会部会 令和8年度研究計画（案）

I 研究主題

社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を主体的に追究する生徒を育てるには、どのようにすればよいか。

—「課題を追究したり解決したりする活動」の工夫—

II 主題について

社会科においては、「主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味等について、比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であること」「課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業が十分に行われていないこと」が課題として指摘されている。社会との関わりを意識させる活動や、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた課題解決的な活動を授業に取り入れることが必要である。

「社会的な見方・考え方」は、資質・能力の育成全体に関わるものであり、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」であると考えられる。

各分野の「社会的な見方・考え方」

- …各分野の特質に応じた「見方・考え方」
- ◇…「思考力、判断力、表現力等」を育むための視点

〈地理的分野〉

- 社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付き等の地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて考えさせる。
- ◇ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関係を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域等に着目して、多面的・多角的に考察する学習活動を充実させる。

〈歴史的分野〉

- 社会的事象を時期、推移等に着目して捉え、類似や差異等を明確にしたり、事象同士を因果関係等で関連付けたりして考えさせる。
- ◇ 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色等を、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながり等に着目して、多面的・多角的に考察する学習活動を充実させる。

〈公民的分野〉

- 社会的事象を政治、法、経済等に関わる多様な視点（概念や理論等）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論等と関連付けて考えさせる。
- ◇ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて、多面的・多角的に考察する学習活動を充実させる。

今年度は、昨年度に引き続き、身に付けるべき資質・能力の明確化を図るとともに、「指導と評価の一体化」に配慮した学習過程と、生徒が主体的に課題を追究できるように、単元等、内容や時間のまとまりを見通した「問い」の設定、「思考力、判断力、表現力等」を育てるための教材開発や学習活動の工夫・改善を図っていく。これらの取組を通して、社会との関わりを意識させる活動や、「社会的な見方・考え方」を働かせながら、課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業づくりに重点をおき、主題の解明に迫りたい。

Ⅲ 研究内容とその視点

1 「指導と評価の一体化」

- (1) 小学校社会科の学習を踏まえながら、社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、地理的分野と歴史的分野の学習の基礎の上に公民的分野の学習を展開するという教科の基本的な構造と相互補完の関係を考慮し、見通しをもった指導計画を作成する。
- (2) 単元ごとの身に付けるべき資質・能力を明確にして、単元等、内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにする。

2 課題の設定

- (1) 生徒が社会的事象から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり、新たな「問い」を見いだしたりすることができるように、単元等、内容や時間のまとまりごとに単元を貫く学習課題の設定を工夫する。また、それぞれの「問い」が有機的に関連し、構造化されたものとなるように留意する。
- (2) 生徒の社会参画意識を育成したり、身に付けるべき資質・能力を明らかにしたりした上で、生徒がもつ社会認識と新たに得た情報や事実との「ズレ」を認識させる資料提示の仕方や発問を工夫する。

3 教材開発の工夫

- (1) 生徒の興味や問題意識に合った教材を選定し、資料提示の方法、資料の内容や量のバランス等を吟味し、生徒の多様な反応を引き出すように工夫する。
- (2) 現代的な諸課題を踏まえた学習内容を取り上げ、社会との関わりを意識させる活動を設定することにより、生徒が主権者として当事者意識をもって問題を捉え、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識を育むことができるようにする。

4 学習活動の工夫

- (1) 社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成するため、思考ツールやICTを活用し、「思考力、判断力、表現力等」を育てる学習活動の工夫・改善を図る。
 - ・複数の資料を分類、比較、関連付けて考えさせる学習活動を繰り返し行う。
 - ・課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できるよう学習活動を工夫する。
 - ・自分の考えを論理的に説明する力や、再構成しながら議論する力を養うために、学習したことを活用したり、考えをまとめたりする場面を設定し、生徒の表現を促す。
- (2) 生徒同士が意見交換したり議論したりする活動を設定し、「主体的・対話的で深い学び」を促す。
 - ・社会的事象について観点を整理して説明したり、議論を通して変容した自分の考えを表現したりする活動を設定する。
 - ・話し合い活動では、根拠等を示しながら、自他の意見を比較・関連付けて、発展させることができるよう、発問や学習形態、板書等を工夫する。
 - ・具体的事例を通して、社会に見られる課題の解決に向け、広い視野から選択・判断したり、話し合ったりする活動を設定する。

Ⅳ 研究方法

- 1 実践に当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、各郡市・地区の実情に応じて上記の研究内容とその視点を基に研究に取り組む。
- 2 各郡市・地区ごとに、授業を進める上での悩みや課題について、実践事例研究や講習会等を通して共通理解を図り、解決に努める。研究授業と研究発表に当たっては、研究内容とその視点を基に、各郡市・地区の実情に応じた研修（協議会、ワークショップ等）に努め、研究を深める。
- 3 学力調査の結果について、S-P表等を活用して指導と評価問題の改善に生かす。

